

令和 2 年度
学校関係者評価報告書

令和 3 年 4 月
独立行政法人国立病院機構
都城医療センター附属看護学校

平成 19 年 10 月学校教育法施行規則改正により「自己評価」の義務化と「学校関係者評価」の努力義務化が規定された。

令和元年度より自己評価結果の客観性と透明性を高め、本校と密接に関係する方々との理解促進や協力連携による学校運営の改善を図ることを目的に学校関係者評価を実施しており、令和 2 年度も実施したので報告する。

1.学校関係者評価委員会

1)学校関係者評価委員

- 小川淳子（学校法人日南学園日南看護専門学校校長）
- 中山秋子（一般社団法人藤元メディカルシステム藤元病院看護部長）
- 小川千才（同窓会白埴会副会長）
- 行田典子（同窓会白埴会副会長）
- 水元篤子（在校生保護者）

2)事務局

- 吉住秀之（都城医療センター附属看護学校学校長）
- 山中真弓（都城医療センター附属看護学校教育主事）
- 草原麻紀（都城医療センター附属看護学校学科調整教員）
- 小倉裕香（都城医療センター附属看護学校実習調整教員）

2.評価対象期間

自：令和 2 年 4 月 1 日

至：令和 3 年 3 月 31 日

3.実施方法及び公表

学校で取り組んだ自己評価を「自己評価結果」として冊子にまとめ、学校関係者評価委員に事務局より配布・説明を行った。学校関係者評価委員会にて、評価基準に基づき評価項目ごとに評価を実施した。その結果を報告書としてまとめ、学校ホームページにて公表する。

4.評価項目及び評価基準

1)評価項目

- (1)重点目標
- (2)教育理念
- (3)学校運営
- (4)教育活動
- (5)学修成果

- (6)学生支援
- (7)教育環境
- (8)生徒の受入れ募集
- (9)法令等の遵守
- (10)社会貢献・地域貢献

2)評価基準

- ・適切(実施)
- ・ほぼ適切(概ね実施)
- ・普通(問題や課題があるが一通り実施)
- ・やや不適切(少し実施)
- ・不適切(実施していない)

5.評価結果

項目 1 重点目標

評価 適切

・一昨年の学校関係者評価での意見を参考にされ、課題が明確であり、具体的な取り組みがなされている。質問しやすい環境を整備するなど、学習環境の改善への努力が伺える。学生からの反応にも変化が見られ、評価結果も上昇しており、学生にも良い影響を与えた結果が伺える。

・今年度は、コロナ禍において思うような教育ができない等、学習環境への影響は計り知れない状況だったと思われる。しかし、創意工夫されている。

項目 2 教育理念

評価 適切

教育理念・目的・目標・学年時の到達目標から計画・実施・評価して次年度に活かされています。

教育理念に基づいた、教育目標やそれに伴う具体策が明確に提示されている。また、具体策の取組で出席カードに質問や意見を書いて提出し、「わからない」をそのままにせず、迅速に対応し解決に導くことができていることは、大いに評価できると思われる。学生への個別対応や個別指導へもつながったのではないかとと思われる。

項目 3 学校運営

評価 適切

・学校運営の客観性・透過性を確保するために、様々な変更等における説明責任を果たした努力が伺え、学生の学校評価のアップに繋がっていることは評価できる。

・講師会議で、活発な意見が出された内容を参考に改善されている。

・組織及び運営委員も明確に表示され、運営会議も適切に開催され、感染防止対策をとりながら柔軟に対応している。

・メールによる議題・問題提起を行い、十分な時間をかけることにより充実した討論および時間短縮ができて効率的な討議ができていると思われる。

項目 4 教育活動

評価 普通

- ・研究授業の評価に、臨床の視点からの評価を得るなどの取り組みは評価できる。しかし、評価の共有についての課題が残されたとのことやそれぞれの教科における課題が明確であることから、さらなる飛躍を期待したい。わかりやすい授業においては、学生評価も前年度よりアップしていることは評価できる。
- ・コロナ禍で実習科目によっては学内実習となり、臨地で患者との関わりができなかったことは残念である。学内実習となった科目については、シミュレーターやロールプレイ等での学生への柔軟な対応により教育の場を提供していた。今後は感染拡大によりどのような状況になるかわからないが、このまま教育活動を継続してもらいたい。
- ・講師会議でも意見があるように、感染防止のためにも遠隔授業はぜひ続けて行く必要がある。遠隔授業環境設定など課題は多々あると思われるが、個々の学生に対応できる環境設定を是非お願いしたい。
- ・今後 ICT 教育に取り組むうえで、課題を整理し改善する必要がある。

項目 5 学修成果

評価 適切

- ・看護師国家試験合格率 100%、学生の希望する（第一志望）病院に概ね就職できている。休学者は 1 名であるが、退学者もなく全体的には良い状況だと考える。
- ・排泄に関する技術経験項目が未達成の学生が多いことは課題である。
- ・卒業生への支援やキャリア形成の把握については今後の課題である。

項目 6 学生支援

評価 適切

- ・進路・就職への支援を定期的に継続しての指導が行えており、それが結果に繋がっている。コロナ禍の中でもメールのやりとりなど工夫されている。
- ・カウンセリングについては、利用者が少ない印象を受ける。コロナ禍の中で学生の状況は決して良い状況ではなかったと予測する。カウンセリングを利用する学生のハードルが高いものになっていないかも考える必要がある。
- ・保護者は、学生がどのような学校生活を送っているのか不明瞭な部分がある。特に、コロナ禍で経済的に困窮している学生への支援等について不明瞭。ホームページ等の活用が望まれる。

項目 7 教育環境

評価 適切

- ・前年度の課題として、図書の不足があげられていたが、学生の意見も取り入れるなど今年度は、図書の充実が図られていました。
- ・コロナ感染拡大により緊急事態宣言が発令され、教育現場にも変化があったと思われる。学外での活動も制限され、リモート授業や学内実習を余儀なくされたが学生の評価にもあるように「わかりやすかった、質問しやすかった」等の意見やハイブリッドシミュレーター導入による授業や実習など、学内教育環境は整備されていると思われる。

項目 8 生徒の受入れ募集

評価 適切

ホームページには詳しく掲載されている、動画の配信もありわかりやすく募集している。しかし、学校行事等の情報発信少ない。もっとアピールした方がよい。

項目 9 法令等の遵守

評価 適切

法令を遵守した文書等の取り扱いが適切に行われている。

項目 10 社会貢献・地域貢献

評価 適切

・コロナ禍で、状況を見極めながらの活動だったと思うが、可能な限り参加している状況が伝わる。学習支援のボランティア活動も素晴らしい活動だと思う。

・看護教員の実務研修や看護教育実習など積極的に受け入れられており、県内の看護教育の質の向上に貢献されている。

6.総括

昨年度は7項目が「適切」の評価であったが、今年度は10項目中9項目が「適切」の評価であった。新型コロナウイルス感染防止対策を取りながらも成果があったことは、学校の現状を学生に説明し、学生の理解を得ながら活動していったことによると考える。しかし、教育活動に関しては「普通」という評価であったことや卒業生への支援や保護者への周知が不足している課題は残された。このため、以下3点の課題が明確になった。

- ①利用しやすいカウンセリングの工夫により、利用率の向上を図ること。
- ②保護者や学校関係者に対して学校の取組を周知するため、ホームページ等を活用すること。
- ③新型コロナウイルス感染防止の取組は今後も続くため、教育環境の整備・工夫を継続すること。

令和 2 年度 自己評価結果

